富山市定例市長記者会見（令和３年７月１日）

■冒頭

市長

皆さん、こんにちは。市長の藤井裕久です。

今日は定例記者会見ということで、報道各位にはお忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。

それでは、説明を始めさせていただきます。

■「富山ガラス大賞展２０２１」の開催について

市長

2018 年の第 1 回に引き続き、2 回目の開催となる国際公募展「富山ガラス大賞展 2021」の入選作品を一堂に展示した展覧会を、今月 10 日（土）から 10 月 3 日（日）までの 81 日間（閉場日を除く）にわたり、富山市ガラス美術館 2 階及び 3 階の企画展示室で開催いたします。

今年 1 月の市長定例記者会見でも、応募状況等をご案内いたしましたが、改めて、これまでの経過を簡単にお話します。

昨年 7 月 1 日から 12 月 10 日までの約半年間にわたり国内外から作品を募集したところ、世界 51 の国と地域の 756 人から、前回を上回る 1,126 点もの応募がありました。

その後、2 月に画像審査、4 月に実物審査を実施することとしておりましたが、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行状況に鑑み、国外審査員には来日を控えていただき、個別にリモートによる画像審査を実施しながら、入選作品 45 点を決定いたしました。応募総数に対する入選率は約 4%と、大変狭き門となったわけであります。

なお、これらの入選作品のうち、国内で活動する作家の作品が 13 点であり、このうち富山ガラス造形研究所の卒業生など本市にゆかりの深い作

家の作品が８点（卒業生５点、助手２点、准教授１点）ということでございました。

改めて日本のガラス作家の技術力の高さ、表現力の素晴らしさ、富山ガラス造形研究所の存在を国内外に示すことができたのではないかと大変うれしく思っている次第であります。

来週８日（木）には、これらの入選作品から入賞作品を決定する最終実物審査を、ガラス美術館で行うこととしておりますが、来日が困難なドイツとアメリカの国外審査員には、会場の実作品をリモートでご確認いただきながら、会場の国内審査員と同時に最終審査を行い、大賞を含む入賞作品９点（大賞１点、金賞１点、銀賞５点、審査員特別賞２点）を決定することとしております。

最終的に、入賞作品 9 点につきましては、来週 10 日（土）の開会式及びウェブサイト等で発表させていただき、展覧会会場で入選作品とともに皆様にお披露目させていただくこととしております。

また、会期中の関連イベントといたしましては、開会当日に、ガラス美術館の名誉館長である伊東順二 東京藝術大学社会連携センター特任教授をはじめ、3 人の国内「2 次審査員による講評会」、来月 7 日（土）には、入賞者の表彰式と合わせて「入賞者アーティストトーク」、さらに会期中には、ガラス美術館学芸員による「見どころトーク」等も開催してまいりたいと考えております。

また、美術館４階の常設展示室では、前回 2018 年の大賞作品をはじめ、過去に本市で開催した国内公募展「現代ガラス大賞展・富山」の受賞作品を中心に展示したコレクション展も開催しておりますので、あわせてご鑑賞いただければと思います。

そのほかにも、今回の展覧会では、国外の方をはじめ、新型コロナウイルスの影響等により、本会場にお越しいただけない方のために、ウェブサイト上の VR 映像を通して、ご自宅から展覧会会場の様子や作品を無料で

鑑賞できるように工夫したいと考えております。

この VR 映像は、実際に来場される方にとっても、事前に映像をご覧いただくことで、実作品をより興味深く鑑賞していただけるのではないかと考えております。

まだまだ新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない状況ではありますが、本公募展を通して、国内外の人々に心の豊かさやゆとりを感じていただくとともに、世界の現代ガラス芸術の振興に本市が少しでも貢献していくことができれば幸いであります。

今回の大賞展が、本市が目指す「ガラスの街とやま」の認知度を国内外に一層高め、シティプロモーションの推進及びシビックプライドの醸成にも大きな効果をもたらすことを期待しているところであります。

ぜひとも、本展覧会を様々な形で注目していただき、世界中から寄せられた、斬新かつ独創的で、表現豊かなガラス作品を通して、現代ガラス芸術の最新の動向や魅力、可能性などを１人でも多くの方に堪能していただければと考えております。
私からの報告は以上です。ありがとうございました。

==========

■質疑応答

記者
市長に就任して初めての定例会となる６月議会を終えての所感をお聞かせください。

市長
今言われたように私にとっては初めての議会ということで、大変緊張をした議会でありました。

議員の皆さんには慎重に審議をしていただき、提出した議案を全て（原案）可決していただいたということで、大変ありがたいと思っております。

また森前市長が編成していかれた「骨格予算」についての「肉付け予算」ということで、各部局のレクチャーも受けながら、6 月議会を通してもそうですが、そこに至るまでも大変中身の濃い、勉強になった期間を過ごせました。そういう意味で言うと、実りの多い 6 月議会であったと振り返ることができると思います。

また、前回の記者会見で申し上げましたが、市議会と市長部局は車の両輪である一方で、市議会には市当局をチェックするという大変重い役割もあるわけですので、そういう面で言うと、しっかりと緊張感を持って 6 月議会を全うできたのではないかと思います。

また、私も以前、議会人として活動させていただきましたが、地域の問題や市民の皆さんの声を、特に新しい議員の皆さんがしっかりと把握され、それに基づいて質問されていたということが、とても印象的でした。

また、私が市長に就任したとき、あるいは選挙戦や後援会活動を通して、市民の皆さんへの向かい方や、政策を実行していくに当たっての市長としての姿勢、私が掲げた重要な公約についても大所高所からの質問をいただき、それにしっかり答えることができて、今後の方向性を示せたのではないかとも考えている次第であります。

==========

記者

6 月議会の中で、市内橋梁の維持管理についての一般質問があって、市長から市全体の施設についての考えを示されたと思いますが、個別に大山地域の「瓶岩橋（かめいわばし）」に関して今後どうしていかれるのか、今後、現地視察に行かれたり、地域の声を聞かれるといったことも考えておられるのかも含めて、現時点での市長の率直な考えをお聞かせください。

市長

富山市全体を見渡して、橋梁や道路、下水道、上水道などの生活インフラも含めて公共インフラの老朽化対策が急務になっております。

こうした社会資本をどうやって維持管理していくのかということは、富山市の最大の課題の一つだと考えています。

例えば橋梁のことを言いますと、本市の管理する橋梁は現在 2,000 橋余りありますけれども、その中でも早急に補修や改修、撤去といった手当てをしなければならない、緊急を要するものが約 200 橋あります。

しかし、現況としてはその 3 割程度しかまだ着手していないということで、今まさにそれらを取捨選択しながら対策を取っていますが、現実としてはそれくらいしか着手できていないのではないかと考えており、このことは大きな問題だろうと思います。

つまり、2,000 橋余りある全ての橋梁をこのまま長寿命化して、維持管理していくということになると、今現在、金額ベースで 20 億円程度は必要だと考えておりますが、実際はその 3 分の 2 ぐらいしか手当てできていないわけです。それが 35 年後には 250 億円かかるのです。

こういうことは橋梁だけではなく、老朽化した道路も然り、下水道もそうです。

こういうことを含めて考えていくと、1 つの判断基準として、将来世代にこれ以上負担を残さないという考え方も大事だと思います。

そして、そのためにどうするのか、老朽化した公共インフラについて、例えば長寿命化するということもあると思いますが、これはあくまでも先延ばししているに過ぎないので、スクラップ アンド ビルド（集約）すること、これは皆さんには多少ご不便をかけるかもしれませんが、老朽化したものを撤去していくという選択肢もあると思います。

こういうことを判断していかなければならないのは、やはり市のトップである市長の責任であると思います。

その上で、私が県議会議員であったときに自民党県連の政務調査会として２回、一度は副政調会長として、もう一度は政調会長として、瓶岩橋を地元の住民の方、自治振興会の方々と（一緒に）視察させていただきました。

県と市の当局（職員）にも現場に来ていただき、逐一、現状の説明を受け、地元の方からは、この橋に対する愛着や必要性、緊急度、安全・安心の確保、生活路線であるということも含めて、非常に重要な橋であるから残してほしいという要望も直接受けたわけであります。

そうしたことをトータルで考えた上でも、瓶岩橋は平成 27 年に致命的な損傷、要はひび割れや段差の発生、剥離などが確認され、いつ落橋しても不思議ではないという状況が発覚したわけです。

したがって、平成 27 年に橋を通行止めにして、今現在管理しているということであります。

その後、詳細な調査を随時進めてきた結果、長寿命化は期待できず、修復できない状態にあるということが明白なわけです。

ひび割れの幅や段差が拡大しており、橋全体が傾きつつあるといった現在の状況であります。

万が一落橋ということになれば、それに伴う二次災害や、河川に与えるダメージ、そして富山市の管理する橋梁が落橋したということになれば富山市全体のイメージダウンにつながる恐れもあります。

こうしたことを総合すると、森前市長のときに地元に対して、瓶岩橋については撤去という方向で考えさせてほしいということをお伝えしましたが、私としましてもその方向を踏襲したいと思います。

ただ、その場合には、（いきなり）「何月何日に橋を撤去します」ということではなく、住民の皆さんとしっかりと意見交換をして、その声を聞いて、丁寧な説明をして進めていきたいと思っており、その思いは変わりません。

==========

記者

高岡市長選挙について、3 人が立候補して激しい選挙戦が繰り広げられていますが、保守三つ巴となった今回の選挙について市長はどのように見ておられるのか、所感をお聞かせください。

合わせて、市長は自民党員ですけれども、誰か特定の候補を支持したり、応援に行かれたりということはあるのでしょうか。

市長

まず、特定の候補への応援というのはありません。

私は自民党籍を持っていますが、三者三様で、それぞれ能力の高い方ですので、大変期待をして見ているわけです。

保守分裂の選挙戦となったことにつきまして、今ほど申しました通り、3 人とも能力の高い方であることはよく存じ上げております。

まず米谷さんは教育長も務められ、行政に精通しておられます。小・中学校の統廃合に政治的手腕を発揮されたこと、高岡市の行政を内側から見てこられた経験があるということです。

角田さんには、その若さと議員としての経験、そして行動力があるということです。

出町さんは、長い間、ジャーナリストとして培ってこられた見識の高さと人脈の広さ、そして外側から高岡市を見られる視点を持っておられることです。

高岡市民の方々は迷っておられると思いますが、良い選択肢がしっかりと出来ていて、高岡市にとって良い選挙であるということではないかと外から見ております。

==========

記者

新型コロナウイルスワクチンの接種について、高齢者の現在の接種状況

と、7 月末までに高齢者の接種完了という市の目標についての所感をお聞かせください。

市長

（高齢者へのワクチン接種の）最新の状況は、後ほど担当部局に確認していただければと思いますが、6 月 29 日現在の高齢者の接種状況を申し上げます。

まず、（本市の）65 歳以上の高齢者数、約 12 万 7,000 人を対象にしているというベースがあります。

1 回目の接種を終えた方が 6 万 2,370 人で、接種率は 49.1％であります。

2 回目の接種を終えた方は 2 万 9,603 人で、接種率は 23.3％であります。

接種体制の強化については、医療関係者や富山市医師会の皆さん方に頑張っていただいておりますので、それらの頑張りを含めて（接種が）加速化していると考えています。

河野大臣からはワクチン（の供給）が切れるかもしれないという報道発表もあったところですが、県内の大企業等を中心にして職域接種が一定程度進むと考えています。

富山市においては北陸銀行、北陸電力、広貫堂、日本海ガスなどの企業、県内でも YKK などの主要な企業が（職域接種に）積極的に取り組んでおられますので、そういうものがミックスすることによって、今後（接種が）加速していくものと考えています。

7 月末までの高齢者接種の完了については、こうした加速化の現状を見れば、接種希望者が（本市の高齢者全体である）約 12 万 7,000 人の 7 割程度であれば、7 月末までに 2 回目（の接種）を打ち終わるのではないかと推測しているところであります。

==========

記者

先に富山市で発生した大規模な食中毒案件について、事件発生に対する受け止めと、今後どのように改善に向けたステップを進めていくことを考えておられるのか、お聞かせください。

市長

まず、1,500 人を超える児童・生徒の皆さん、そして教職員、学校関係者の方々が食中毒の症状を発症されたことに関しましては、富山市長として大変申し訳ないと思っております。

市保健所が中心となって、原因の究明や事態の収拾、今後の改善方策等について、教育委員会や関係部局と鋭意、連絡をとりながら進めているところであります。

まず、原因物質でありますが、保健所では、国の専門機関から専門家の派遣を受けて疫学的な原因究明方法で事態を発表してきたわけであります。

その中で大腸菌群といった菌も発見されておりますので、そういうものを時系列に事実をお伝えして、評価をしていただき、全容について、その進め方が正しかったのか、今後の方針も含めて、アドバイスを受けるという方向で考えております。

また、市医師会の代表の方や県衛生研究所の所長など、専門的知識のある方からアドバイスをいただく場も設けて、あらゆる角度から検証していただいて、（食中毒の）原因となったのが牛乳であろうということですので、その業者の製造ラインの改善も含め、もちろん製造業者のご理解をいただきながら、次の方策を進めていきたいと考えています。

また、先ほども申し上げましたが、児童・生徒の皆さん、保護者の皆さんや学校関係者の皆さんに多大な迷惑をおかけしたことは事実でありますので、心よりお詫びを申し上げます。

記者

先日、水橋地区の義務教育学校の設置が予定されている地域の周辺を視察されたと思いますが、地元の住民からは、この義務教育学校を含めた周辺の一体的な整備を求める声があり、学校再編を機会として今後どのように進めていかれるお考えなのか、ビジョンをお聞かせください。

市長

（水橋地区では）2 つの中学校、5 つの小学校を水橋高校の跡地に集約して義務教育学校を整備するということが決定していますし、水橋会館も新しく整備されます。

こうしたところや水橋駅を中心に、地域の商工会や自治会といった（地域の）お世話をされている皆さん、学校関係者の皆さん、企業関係者の方々が集まられて、地域の将来像を描き、ディスカッションされて、現地を視察されて考えるということはとても意味のあることだと思っています。

これは水橋地区に限らず、中心市街地でも、中山間地でもあり得ることだと思います。

その地域を将来、どういう姿にしていきたいのかを真剣に議論することは非常に大事だということを視察に参加させていただいて感じました。

ただ、今回の視察は水橋駅を中心にした水橋のまちづくりという命題だったと思いますけれども、実際に現地を見て、市でお手伝いできること、県に入っていただかなければできないこと、あるいは国にお手伝いしていただかなければいけないこと、民間企業に参加していただかなければならないことなど、たくさんの問題があります。

今後はそういうことを一つ一つ、しっかりと住民の皆さんと話し合いをする中で、市として何をお手伝いできるのかということを見極めていきたいと思っています。

いずれにしてもこうした動きがそれぞれの地域で活発に行われていくことは大歓迎です。

==========

記者

学校の再編統合の問題を見据えた形で、今月から「子どもと学校、地域の未来を育むワークショップ」がスタートすると伺っています。

市長もこのワークショップに参加されるということですが、その場でどのような意見を求めたいのか、どのようなことを考えていきたいのか、お聞かせください。

合わせて、今年度中に学校再編の具体的な方針が決まると伺っていますが、どのようなスケジュール感で進めていかれるのでしょうか。

市長

スケジュール感から申し上げますと、まず前提となるのは、例えば複式学級が編制されている、あるいは１学年１クラスであるといった小・中学校がありますけれども、こうしたエリアというのは部活動や集団活動（の観点）や、クラス替えがないとか、今後そのエリアではお子さんが増えていかないといった現実的な問題も含めて、再編統合の可能性があると認識をしております。

その中で今年度中にワークショップを開催して、地域の方々の意見を聞きながら、今後のスケジュールを立てていくのに役立てたいというところまで今、来ていますので、今のところはそうした認識でいます。

ワークショップの内容について、私のほうからは学校教育や地域における学校の重要性などについて 20～30 分間お話しをさせていただき、その後、地域の方々から地元の学校がどうあるべきか、どうなってほしいのか、そうした意見も聞きながら、子どもたちにとってベストな道、地域にとってベストな道とは何なのかというところを一緒に考えていけたら良いかなと思っています。

まずは地域の方々から多くの意見を聞かせていただければ良いなと考えています。

==========

記者

新型コロナウイルスワクチンの不足について、1 つにワクチンの供給スケジュールが市に情報共有されているのかということ、2 つに、個別接種を実施する医療機関にワクチンの供給を抑制する自治体も出てきていますが、その辺りは検討されているのかということ、以上の 2 点について、お聞かせください。

市長

今おっしゃったようなことはそれこそ報道によって知っているところであります。本市においては、国に対して、これまでも県と協調してワクチン供給の情報を提供してほしいということを、逐一要望してきているところであります。

高齢者に対するワクチン接種のスケジュールについては、皆さんご存じのとおり、100％来ておりますが、その後については私もまだ承知しておりませんし、詳細は担当課に聞いていただければと思います。

約 1 週間前だったと思いますが、（担当課からの）報告では、いつ頃にどの程度という具体的なことはまだ知らされていないということを聞いております。

今日現在（の情報）ということは、担当課に聞いていただければと思います。

==========

記者

おわら風の盆について、正式な決定はまだのようですが、2 年連続で中止になる見通しかと思います。市長はそうした動きを現時点で、どのように見ておられるのでしょうか。

市長

おわら風の盆が昨年に引き続いて中止ということになれば、大変残念なことだと思っています。

ただ、報道で知る限りでは、安全を最優先するための苦渋の選択だということですので、仕方のないことではないかと思います。

一方で、伝統文化の継承は大事なことであり、小・中・高校生の皆さんが夏休みの期間にレベルがぐっと上がってきて、技の継承がなされていくということですので、既に稽古は始まっていますが、そうしたことについてはしっかりと取り組んでいただければ幸いだと思います。
何かできることがあれば応援させていただきたいなと思っています。

==========

※発言内容を一部整理して掲載しています。・・・富山市広報課